

KSKS

ニュースレターあすく

NO.24

編集人 NPO 法人 あすく



工房あすく再開 10 周年を迎えました。

NPO 法人あすく理事長 中原 誠哉

伏見区深草六反田のこの地において工房あすくを再開してから、おかげさまで 2018 年 8 月に開設 10 周年を迎えることができました。ひとえに各方面の皆様方の温かい御支援の賜物でございます。この場をお借りして、お世話になりましたすべての方々に心より御礼申し上げます。

自閉症スペクトラムに特化し、地域社会で豊かな生活がおくれることを目標に、生活介護と自律訓練の 2 本の事業で開設。2012 年には京阪伏見稻荷駅前に自立訓練事業を主たる目的とした NEXT を新設、2015 年には本館デイセンターを中心とする生活介護事業部門が定員を満たすなど、一見順調にみえますがここに至る道程は大変険しいものでした。

『こんな施設があればありがたい』という親の願いとは別に、支援側からはすべて個別のケースであるが故『いったいどうみればいいんだ！』と強度行動障害や二次障害に代表される難題に向き合う声が現場から絶えず上がり、当事者、支援者、家族にとって良い支援とは何かと理事と職員と一緒に模索し続けた 10 年間だったとも言えます。

一方で京都府自閉症協会をはじめとする関係機関の長年にわたる地道な努力が実を結び、相談機関や放課後等デイサービスなどをはじめとする自閉症スペクトラムの人たちを取り巻く環境も随分と改善されてまいりました。当法人の事業におきましても、職員の処遇改善や、手厚い支援への給付の恩恵を受けられるようになり、デイセンターにおいては必要な場合はマンツーマンや複数による支援、さらに必要がある場合は個室での支援を行うことなど個別対応の方針を実践したところ、急激に利用者の安定や QOL の向上につながりました。NEXT においても同様の理念のもとで活動や仕事に取り組み、現在は自主製品の開発に余念がありません。最近になり所長以下、非常勤の方も含めてスタッフのレベルの向上が著しく、ほんとうに利用者一人一人にキメの細かい支援を行えるようになってきたことを誇らし